



菅波 茂

97.12.4

前回紹介したJANANの活動として「風の宿」ネットワークを考えている。このネットワークの核心は「お接待の心」と「ボランティアの心」の結合である。風土は風と土との出合いで形作られる。土とは土着の文化で、風とはよそから来る文化である。「地域おごし」に必要なのは新しい風が吹くことである。風は「ボランティアの心」を持った人とともに来る。新しい風を受け入れる「お接待の心」で待つ宿。これが「風の宿」の意味である。

私が22歳の時にインドを旅行した時に風の宿の原形を見た。それは金持ちのインド人が、旅をする

若者たちのために宿泊と朝食を無料で提供する施設であった。世界中のさまざまな若者たちがこの施設を利用しており、

世界中の情報が渦巻いていた。さまざまな出会いがあり、いまだに続いている人間関係もある。

JANANに参加するNPO/NGOがそれぞれの地域で、若者たちに宿泊と朝食を無料でお接待する施設を運営し、全国ネットワークで利用してもらったらどうだろうか。

施設は神社仏閣、公民館、ホームステイなどなんでも結構である。寝袋持参を要求してもいい。

それから2〜3時間のボランティア

活動のメニューをそろえてみたらいかだろうか。ボランティア活動が地域との理解を深めてくれるだろう。自治体と組めば豊富なメニューもそろえ、場合によっては地域おごしのメニューの見学、視察も意味がある。主要な交通機関であるJRやバス会社などが「JANAN風の宿切符」を割引サービスで発行してくれば、全国に風が吹きまわること確実である。

知的好奇心に満ちた小中高生、大学生、人生を少し休息してみた社会人、第二の人生を模索している熟年者、日本を選んだ留学生、未知との遭遇を求めて世界を旅している人たちなど。だれでもその気のある人、来たれ。原点は「百聞は一見にしかず」である。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)

「風の宿」ネットワーク